

鹿児島県立埋蔵文化財センター

Kagoshima Prefectural Archaeological Center



# 埋文だより

第33号

平成15年12月5日発行

奄美の遺跡

奄美群島本土復帰50周年を迎えて



2003年12月、奄美群島が本土に復帰して50年が経ちます。この半世紀の間、奄美群島では多くの遺跡が発掘され、島々の歴史が少しずつ解明されてきました。遠い昔、この地に住んでいた人々は独自の土器文化を育みながら魚や貝、動物の骨などを利用して生活道具やアクセサリを作ってきました。また、奄美群島の遺跡では、九州の縄文土器や弥生土器、長崎で作られた平安時代から鎌倉時代にかけての滑石製石鍋が発見されています。一方、南西諸島でしかとれないゴホウラやヤコウガイで作られた貝製品が本州の遺跡で見えたり、徳之島で焼かれたカムイヤキという陶器が薩摩半島の遺跡で見つかったりしています。はるか昔から遠く海を隔てた中で人々が交流してきたことがうかがえます。

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、  
土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、  
入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

埋蔵文化財センターホームページ：<http://www.jomon-no-mori.jp>

## 目次

- ・奄美の遺跡 … 1
- ・奄美諸島の主な遺跡 … 2
- ・センターの行事紹介 … 3
- ・遺跡紹介 … 4, 5
- ・展示紹介「埋文アートギャラリー」… 6
- ・上野原縄文の森特別企画展開催中 … 6
- ・施設紹介「図書室」 … 6

写真：奄美の遺跡から出土した品々（背景：加計呂麻島）



# 奄美諸島の主な遺跡



## 6 宇宿小学校構内遺跡 (笠利町)

縄文時代前期～晩期の遺跡で、住居跡や奄美で初めて犬の埋葬された跡が発見されました。また、中国・四国地方で作られた縄目の文様が入った土器や貝・骨で作られた多数のアクセサリーなどが発見されました。ほかには裏側に細工が施された石皿も見つかっています。

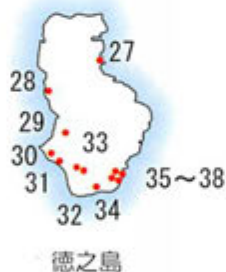


## 26 山田中西遺跡 (喜界町)

喜界町中央部の台地にある11～14世紀頃の遺構・遺物が数多く発見された遺跡です。中でもカムイヤキの壺や中国製白磁の置かれた土坑が5基見つかったこと、多数の柱穴が見つかったことなどが注目されます。

## 44 住吉貝塚 (知名町)

縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての遺跡で、周囲にも多くの遺跡が点在しています。土器や石器、貝や動物の骨でつくられた生活道具などと共に、竪穴住居の跡が多数発見されました。竪穴住居は石を積んだ壁と隆起珊瑚礁の岩盤を利用してつくられています。



## 32 カムイヤキ古窯跡群 (伊仙町)

カムイヤキは11～13世紀に南西諸島に広く流通した陶器で、1983年に伊仙町カムイヤキで窯跡が発見され、生産地が分かりました。これまでの調査で100基以上の窯跡が見つかっています。金峰町の芝原遺跡や串木野市の楯城跡でも出土しています。



## 48 上城遺跡 (与論町)

沖永良部島

与論島の南東に位置し、与論城以前の上城跡の北側の畑地で発見された縄文時代晩期の遺跡です。19基の住居跡や貝製の装飾品、ジュゴンの骨で作られたかんざしなどが見つかりました。

住居跡から出土した土器と同じ文様の土器が金峰町の上水流遺跡でも見つかっています



1	あやまる第2貝塚 (笠利町)	25	総合グランド遺跡 (喜界町)
2	マツノト遺跡 (笠利町)	26	山田中西遺跡 (喜界町)
3	喜子川遺跡 (笠利町)	27	城島遺跡 (徳之島町)
4	宇宿貝塚 (笠利町)	28	天城遺跡 (天城町)
5	宇宿高又遺跡 (笠利町)	29	ガラ竿遺跡 (天城町)
6	宇宿小学校構内遺跡 (笠利町)	30	犬田布貝塚 (伊仙町)
7	下山田遺跡 (笠利町)	31	塔原遺跡 (伊仙町)
8	泉川遺跡 (笠利町)	32	カムイヤキ古窯跡群 (伊仙町)
9	ケジ遺跡 (笠利町)	33	ヨヲキ遺跡 (伊仙町)
10	和野トフル墓 (笠利町)	34	面鏡貝塚群 (伊仙町)
11	長浜金久遺跡 (笠利町)	35	ウエアタリ遺跡 (伊仙町)
12	土浜ヤーヤ遺跡 (笠利町)	36	ウシロマタ遺跡 (伊仙町)
13	イヤンヤ洞穴 (笠利町)	37	喜念原始墓 (伊仙町)
14	サウチ遺跡 (笠利町)	38	喜念貝塚 (知名町)
15	ウフタ遺跡 (龍郷町)	39	中浦洞穴 (知名町)
16	手広遺跡 (龍郷町)	40	和道跡 (和泊町)
17	小湊フワガネク遺跡 (名瀬市)	41	余多石原遺跡 (知名町)
18	朝仁天川遺跡 (名瀬市)	42	浜浦B遺跡 (知名町)
19	サモト遺跡 (住用村)	43	志喜屋武当遺跡 (知名町)
20	喜徳遺跡 (瀬戸内町)	44	住吉貝塚 (知名町)
21	倉木崎海底遺跡 (宇検村)	45	神野貝塚 (知名町)
22	ハンタ遺跡 (喜界町)	46	スセン堂遺跡 (知名町)
23	島中B遺跡 (喜界町)	47	与論城跡 (与論町)
24	赤連遺跡 (喜界町)	48	上城遺跡 (与論町)



## センターの行事紹介

## 初任者研修「考古学講座」開催

小・中・高等学校の新任の先生方に考古学に興味を持っていただき、総合的な学習などを利用して児童・生徒に充実した学習指導を展開してもらう趣旨で、新任教職員研修講座を8月19・20日に行いました。

県内各地より30名の教職員が参加し、初日は講演「南九州の縄文文化について」「上野原遺跡の活用について」を聴講後、遺物の水洗いを体験し、「縄文の森」の復元公開区・体験学習館を見学しました。

二日目は金峰町にある「上水流遺跡」で、火起こしや勾玉作りと、遺跡での発掘体験活動をしました。



火起こし奮闘中！

## 職場を学びました —インターンシップ研修等実施—



木器の保存処理を行う研修生

大学生等を対象に、職場について学ぶ「インターンシップ」の研修生を受け入れました。県内の大学、高等専門学校から約2週間、9名の学生たちが発掘調査や整理作業などの仕事について学びました。

また、7月9～10日には職場体験学習として国分南中学校の2年生12名がセンターの仕事を体験し、7月28～31日には地域貢献体験研修として国分南小・中学校の先生方5名が埋蔵文化財センターの仕事について学びました。

## 身近な歴史に興味津々 —地域が育む「かごしまの教育」県民週間行事—

地域が育む「かごしまの教育」県民週間にちなんで、10月25日に金峰町上水流遺跡で、11月8日に串木野市榕城跡で現地説明会を開催しました。当日は晴天にも恵まれ、両遺跡合わせて約400名の参加がありました。

上水流遺跡では縄文時代の調理施設と考えられる集石遺構や鎌倉時代の掘立柱建物跡を紹介しました。榕城跡では土坑の中に経文の書かれた多量の小石が入った「一字一石経塚」と思われる遺構などを紹介しました。

何千年にもわたる貴重な資料に地域の方々も熱心に説明を聞いていました。



熱心に説明を聞く見学者



## 遺跡紹介

## 中町馬場遺跡（里村）



再葬された人骨



獣骨（下あごと肩の骨）

里村教育委員会は、集落排水事業に先だって平成15年5月から6月まで中町馬場遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、昔の人々が食べた貝などを捨てた場所（貝溜まり）や、当時の人を葬った場所などが見つかりました。これらの中でも、一度葬られた人骨を集めたと思われる場所（再葬墓）が目立ちます。この再葬墓からは、免田式土器と呼ばれる頭の長い壺形土器と一緒に出土しています。これまでの研究などから、弥生時代後半（約1,800年前）のものと考えられており、再葬の時期を特定する有力な手がかりとなりました。

（写真提供：里村教育委員会）

## 大島遺跡（川内市）

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴い平成9年から11年まで、川内市大島遺跡の発掘調査を実施しました。大島遺跡では、鉄製の直刀や短剣、鉄鎌、須恵器の坏などが副葬された古墳時代（約1500年前）の土坑墓が検出されました。直刀は長さ95cm、幅4cmで、複数の短剣や鉄鎌が貼り付き、サビに覆われた状態で検出されました。鉄製品は空気に触れると腐食が進みボロボロになってしまうので、壊さないように慎重に取り上げ、腐食の進行を防ぐために乾燥剤入りの袋に詰めてから埋蔵文化財センターへ持ち帰りました。



土坑の中から現れた刀とX線写真

センターでは鉄器処理室でサビを落とし、腐食を防ぐための保存処理を施します。全体に厚いサビが覆われているため直刀に短剣が何本貼り付いているか分からず、このままではさび落としの作業に入ることが出来ません。そこでX線撮影を行い、中の状態をくわしく調べた結果、直刀の先端部に鉄鎌が4本以上、中ほどに短剣が2本貼り付いていることが分かりました。この結果をもとに表面のサビを慎重に取り除き、徐々に全体像が明らかになりました。

今後は分離可能なものについて慎重に切り離す作業に入る予定です。

## 高篠遺跡（財部町）



「舎」



「牧」

東九州自動車道建設に伴い、平成10年から12年にかけて発掘調査した高篠遺跡は、現在報告書作成中の遺跡です。この遺跡からは、土師器と呼ばれる古代(9C~10C)の土器がたくさん出土していますが、特に注目されるのは、土器の表面に黒墨で文字や記号などを書いた墨書土器が100数点も出土したことです。墨で書かれた文字には、判読可能なものや不可能なもの、また意味のわかるものや不明なものがあります。左の写真は判読可能なものの一部です。上の文字は「舎」、下の文字は「牧」です。これらは官衙(役所)に関する文字ではないかと考えられていますが、詳細については現在調査中です。大隅地方では墨書土器がまとまって出土している遺跡が少ないので、墨書土器そのものや鹿児島県の古代を考える上で重要な遺跡として注目されています。

## 霜月田遺跡（川内市）

霜月田遺跡は、南九州西回り自動車道川内道路建設(インターチェンジ予定地)に伴い調査が行われています。平成11年度の確認調査(遺跡の有無や範囲を決めるため実際に少し発掘してみる)によって、遺跡の存在が確認されました。平成12年度に発掘調査を行い、縄文時代早期(約1万年前~7,000年前)・晩期(約3,000年前)、中世(鎌倉時代~戦国時代)などを中心とする複合遺跡であることがわかりました。

本年度の発掘調査では、地面に直接柱を立てる掘建柱建物跡や、地面に穴を掘って壁の代わりにした竪穴建物跡など中世の遺構が検出されています。(写真の白い線で囲っているところが遺構のあるところです。)道跡については出土している遺物から判断して、明治時代以降の比較的新しいものだと思います。



遺跡を真上から見たようす



## 展示紹介

### 埋文アートギャラリー



展示のようす

埋蔵文化財センターでは、収集している遺物を小テーマに沿って展示した『埋文アートギャラリー』を2階ロビーで行っています。

記念すべき第1回目は「器に描かれた生きものたち」をテーマに、江戸時代から明治時代を中心とした県内の遺跡の出土品の中から、さまざまな生き物たちが描かれた焼き物を集めてみました。

今後も九州新幹線開通の記念展示や『上野原縄文の森』の特別企画展と連動した小展示などを計画しています。埋蔵文化財センターへお越しの際は「埋文アートギャラリー」へも足をお運び下さい。

### 上野原縄文の森 特別企画展開催中！

平成15年11月1日から平成16年2月8日まで「上野原縄文の森」展示館において第6回特別企画展「火山と共に生きた人々～火の国 鹿児島～」を開催しています。

鹿児島県は桜島や霧島連山、開聞岳など多くの火山に囲まれ、そこに住む人々は火山噴火による災害を幾度となく経験してきました。今回の特別企画展では、火山と共に生きた鹿児島の人々の歴史を考古学的な視点から紹介しています。ぜひ、ご観覧下さい。

## 施設紹介

### 図書室



図書室のようす

遺跡の発掘調査が行われると出土した遺物や遺構などを図面や写真に記録します。それらの遺跡の情報をまとめた本を報告書といいます。

図書室はこれらの報告書や埋蔵文化財に関する文献などを収集し、保管・活用する場所です。11列ある本棚には現在約3万3千冊の蔵書があり、県内はもちろんのこと全国の遺跡の情報を知ることができます。また、上野原遺跡関係の文献や考古学の一般書などについては『うえのはら文庫』コーナーを設置し、より利用しやすい図書室をめざして努力しています。

現在、パソコンを使って蔵書の検索ができるように準備をしています。だれでも自由に閲覧できますので、気軽にお越し下さい。

### 埋文だより 第33号

発行日 平成15年12月5日  
編集・発行  
鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-4461  
鹿児島県国分市上之段1175番地1  
TEL 0995-48-5811  
FAX 0995-48-5820  
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp